



第36回 大阪府作業療法学会 福祉用具グランプリ報告

下西 徳 (学校法人 関西医科大学附属病院)

12月11日第36回大阪府作業療法学会にて福祉用具グランプリを3年ぶりに開催することができました。昨年度は、発表演題が集まらず開催を断念しましたが、今年度学会ではなんと7演題も応募があり無事に開催することができました。応募していただいた福祉用具は、3Dプリンターで作成した万能カフ、本をめくるための手袋、振動刺激を応用したペンホルダーなどセルフケア・趣味活動・遊びなどを支援する作品と多種に亘り、実際の作品に触れながら、発表者と参加者が活発な意見交換が行っていました。

また今年度は、技術セミナー「在宅でコミュニケーション支援に難渋した事例を通じて、コミュニケーション支援の在り方を考える」を開催。事例提示者に小野稿樹

先生(医療法人啓友会 なかじま診療所)、助言者に柏木知以子先生(アクセスール株式会社)にご登壇していただき、講義・グループワークを通して、約25名の参加者と福祉用具委員会でコミュニケーション支援の在り方について熱いディスカッションを行うことができました。

福祉用具相談ブース・生活行為工夫情報事業に関する説明会も行い、福祉用具委員会が日々行う事業活動の広報も行うことができました。

ご多忙の中、作品を応募してくださった発表者や学会に参加してくださった方々には厚く御礼申し上げます。福祉用具委員会は、これからも大阪府士会員に福祉用具に作業療法士が関わる意義を啓発する活動を取り組んでいきたいと思えます。

第36回大阪府作業療法学会 福祉用具グランプリ受賞作品・者 「リコーダーの穴を押さえやすくなるようにしたベルト付きクッション」

山本 柚葉 (社会医療法人大道会 ポバース記念病院)

今回、このような機会を頂けたのも、担当のお子さんからの「リコーダーを上手に吹きたい!」という気持ちがあったからこそでした。

「やってみたい!」や「できるようになりたい!」をこれからも一緒に考えていきたいと思えます。

